

第9回中部地方整備局コンプライアンス・アドバイザー委員会 議事概要

1. 日時及び場所

- (1) 日時 平成31年3月7日(木) 15:00～
- (2) 場所 中部地方整備局(名古屋合同庁舎第2号館) 6階中会議室

2. 中部地方整備局コンプライアンス・アドバイザー委員

委員長	熊田 均	弁護士
委員	上田 圭祐	公認会計士
委員	柴田 義朗	弁護士
委員	井上 純	中日新聞論説委員
(欠席委員)	横溝 大	名古屋大学大学院教授)

3. 議題

- (1) 平成30年度中部地方整備局コンプライアンス報告書(案)
- (2) 平成31年度中部地方整備局コンプライアンス推進計画(案)

4. 議事概要

- ・事業者を対象にしたコンプライアンス講習会は効果的である。今後もより一層取り組んでいくべきである。
- ・研修等における講義の実施にあたっては、マンネリ化防止の工夫が必要。グループ討議などの参加型は有効である。一方で、たとえマンネリ化が避けられなくとも、繰り返し聞くことで一定の防止効果を得られることから、継続していくことが大事である。
- ・eラーニング受講の際の復習にあたっては、設問の順番を変えて再出題すると効果が高まる。
- ・職員の負担が増えるとかえって逆効果となる。弾力的に対応していく必要がある。
- ・全体としてしっかり取り組んでいる。
- ・来庁者用受付簿の運用にあたっては、来庁者が他の来庁者情報を知り得ないよう工夫すると更に有効な情報管理となる。
- ・内部報告者が危惧する調査段階の匿名性の確保については、報告者と意思疎通を図りつつ調査を行うことなども含めて周知することが有効である。